

学校教育目標	心身ともに健全で、一人一人が生き生きと輝く子どもの育成
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》	一人一人の生徒が夢をもち、自己実現できるために、生徒の徳・知・体の力を高める。
《重点目標2》	率先垂範、教育的な温かさや厳しさをもって生徒の指導に当たり、チーム南中として全員で協力し、ともに学びと誇りを共感できる校風を醸成する。
《重点目標3》	小学校、保護者、地域や関係機関等との連携を深め、信頼・協力関係を深化させる

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
 - ①学力向上に関する取組
 - ②体力向上に関する取組
 - ③心の育ちに関する取組
 - ④いじめ問題解決に関する取組
 - ⑤特別支援教育推進に関する取組
 - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	【授業規律の徹底】 ※学校評価における生徒質問紙の項目 ○「チャイム着席を守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合80%以上 ○「授業のノートをきちんととっていますか」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合80%以上	○教師自らが範を示し、チャイムでの授業開始・終了を徹底する。 ○休憩時間を含めて、教室・廊下の見守りを本年度も継続して、落ち着いた雰囲気や授業をする雰囲気を作り上げる ○各教科でノート指導を徹底する。また、優秀なノートをモデルとして紹介し、全体の質を高めていく。	B	○「チャイム席を守っているか」という質問に対する肯定的な回答をした生徒が98.7%であった。 ○授業規律の保持のために、職員研修会で実状の報告と対応策について職員間の意思統一を図ることができた。 ○掲示してあるノートの例を見て、生徒同士で話をしている姿が見られた。 ◆教科担任によってノート指導や板書計画に差がある。全体のレベルアップにより、生徒のノートの質を向上させるためには、教師全体の板書計画等の質の向上が必要である。 ◆多くの教師がワークシート等を使用しているため、内容等についての質の向上を目指す。
	【授業改善による学ぶ意欲の醸成】 ○「学校で好きな授業がありますか」という質問に肯定的な回答をする生徒の割合80%以上 ○「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合80%以上	○管理職及び教務主任による校内巡視を毎日行い、日常的に授業見学を行う。 ○一単元の授業の中に、各教科で1回は「話し合う活動」を取り入れる。 ○小中連携の取組で作成した「授業チェックシート」などを昨年度に引き続き活用する。	B	○授業改善や授業規律の徹底により、生徒の学ぶ意欲が向上したことは、肯定的な回答をした生徒の割合は、「好きな授業がありますか」が88.7%、「授業に積極的に参加していますか」が95.7%であった。 ◆学力の厳しい生徒の中には、学習に対する意欲を失いつつある生徒も存在する。克服のためには、ユニバーサルデザインの授業作りについて、校内での意思統一を図り、推進していく必要がある。 ◆職員全体の授業スキルアップのため、模範的な授業を参観する機会を設ける等、校内研修を充実させる必要がある。
	【補充学習による基礎・基本の定着】 ○北九州学調のA問題において、市の平均との差が前年度より改善する(100%) ○「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくださいか」という質問に、肯定的な回答をする生徒の割合80%以上	○定期考査前を中心に、放課後教室を計画的に実施し、理解の厳しい生徒に粘り強く指導していく。 ○朝自習の時間を活用し、基礎的・基本的な内容の徹底のための取組を計画的に行う。また、その成果はスモールステップで評価し、理解の厳しい生徒にも学習意欲をもたせるようにする。	B	○「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくださいか」という質問に、肯定的な回答をする生徒の割合80%を超えた。 ◆補充学習が学年独自の取組になっており、学校としての方向性が明確でなかった。来年度は、学校として基礎学力の定着のための取組を推進していく必要がある。 ◆活用問題や診断テストの取組が、計画的に行われなかったため、来年度は教科の進捗と関連性をもたせながら計画的に取り組む必要がある。
体力向上に関する取組	【授業改善による運動に対する意欲の向上】 ○「体育の授業は楽しい」の質問に対する生徒の肯定的な回答の割合が90%以上 ○「ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」という質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合80%以上	○体育の授業において、体育実技学習ノートを使用する。毎時間のめあてや振り返りを記入させることにより生徒に見通しをもたせ、意欲的に授業に取り組むことができるようにするとともに、効果的な技術の修得につなげていく。 ○体育大会の取組では、生徒の実行委員会を組織し、生徒に主体的に取り組ませることにより、自主性を育て、運動に対する意欲を喚起していく。	B	○体育の授業を見学する生徒が、昨年度に比べて激減した。 ○体操服を忘れる生徒がほとんどなくなった。 ○実技の授業で話し合う場面を設定したことで、チームの雰囲気や良くなり、意欲を喚起できた。 ◆県外視察に参加した職員により、教科内においては、随時、伝達研修を行うことができたが、全職員に対しても研修を行うようにする。 ○体育の授業では、グラウンドにもホワイトボードを設置するなどの工夫により、授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)がほぼ示された。 ◆体育の授業に対する生徒の意識が高まってきたので、来年度も取組を継続していく。
	【基礎的な体力の向上】 ○新体力テストの結果が、全国平均との比較において、全ての項目で前年度を上回る(100%) ○「運動やスポーツが好き」の質問に対する生徒の肯定的な回答の割合が90%以上	○体育の授業の最初には、毎時間ウォーミングアップ後に補強運動を取り入れ、生徒の基礎的な体力向上を目指す。 ○体力テストは、生徒に意義を十分理解させたうえで、適正に実施する。 ○体力テストの結果を適切に評価するとともに、生徒の意欲向上につなげていくようにする。また、年間を通して、昼休みのボールの貸し出しを行い、スポーツをする時間を設ける。	B	○年間を通して、準備運動に補強を取り入れる等基礎体力向上の取組を実施できた。また、体育の授業に対する生徒の意識も高まってきている。 ○見学する生徒の減少により、チーム競技が以前よりも活発化し、積極的に取り組む生徒が増加した。また、気候に合わせて、走的な運動を増やすことによって、心肺機能も高めていくことができた。 ◆新体力テストの結果が、全国平均との比較において、全ての項目で前年度を上回ることはできなかった。 ◆「運動やスポーツが好き」の質問に対する生徒の肯定的な回答の割合は79%にとどまった。運動に興味をもたせるような軽スポーツを授業に取り入れる等の工夫が必要である。
心の育ちに関する取組	【正しい考えを行動で示せる生徒の育成】 ○「人が困っているときは、進んで助けますか」という質問に、肯定的な回答をする生徒の割合が80%以上 ○「進んであいさつをしていますか」という質問に肯定的な回答をする生徒の割合80%以上	○こどもつながりプログラムを系統的に行い、生徒相互および教師と生徒の人間関係を深めていく。 ○道徳の授業に話し合い活動を取り入れ、生徒が自分の考えを発表する場面を設定する。 ○教師から率先して挨拶を行うとともに、生徒会の挨拶運動を通して生徒の主体的な活動としていく。また、地域とも連携する。	B	○「積極的にあいさつをする。困っている人がいたら助ける」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒がそれぞれ80%を超えた。 ○来客から「生徒の挨拶がよい」と、お褒めの言葉をいただいた。 ◆新生徒会役員と共に、更に具体的かつ積極的なあいさつ運動や生徒会活動の充実を図っていきたい。
	【人権を尊重する生徒の育成】 ○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に、肯定的な回答をする生徒の割合が90%以上 ○「人の役に立つ人間になりたいですか」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合90%以上	○3校合同人権研修会を計画的に実施し、教員の人権感覚を高める。 ○「いのち」を系統的に活用して、生徒に確かな人権感覚を醸成する。 ○人権週間には「明日への伝言板」を毎日放送で流し、生徒に考えさせたとうえで、毎日感想を書かせる。	B	○「いじめはいけない」「人の役に立ちたい」という質問に対する肯定的な回答をした生徒が89.2%、83.8%であり、概ね目標を達成できた。 ◆校内でのあいさつは徹底してきているが、地域とのつながりは、一部の部活動のみに限られている。地域と連携した取組を、生徒・職員一体となって推進していく必要がある。